

TOPICS
4社会福祉法人風の馬
こども園・こどもデイセンター開設インクルーシブ保育と障害児通所支援。
一人ひとりをやさしく包みこみ育てます。

●ペガサスグループが万全の体制でバックアップ。

社会福祉法人風の馬の新しい事業、ペガサス福泉中央こども園、ペガサスこどもデイセンター福泉が、令和4年4月1日オープンしました。

こども園の特長は、大きく二つあります。まずは、インクルーシブ保育。これは医療的ケア児と健常児が、共に学ぶ保育であり、障害の有る子も無い子も、また、どのような背景を持っていても、分け隔てなく一緒に保育を行う形式を指します。お預かりするのは、0歳から小学校就学前まで。一貫した教育と保育を提供していきます。

そしてもう一つは、こども園に併設された障害児通所

支援事業所。障害を持つ児童や発達に心配がある児童に、療育を提供するものです。具体的には、日常生活の基本動作修得や、集団生活適応への個別療育プログラムを展開する児童発達支援と、生活能力向上への支援、余暇の提供といった放課後デイサービスがあります。

こうした二つの特長を支えているのが、馬場記念病院を核とするペガサスグループです。医療・介護・福祉領域での高い専門性をもとに、医師をはじめとする多職種がチームを組み、万全の体制でバックアップしていきます。

●新しい保育に、高い意欲を持つスタッフが揃っています。

こども園には、既存の堺市立福泉中央こども園から、引き続き通う園児たちと、新たに入園した園児たちがいます。なかでも新たに入園した医療的ケア児の保護者の方は、ぜひ健常児とともに育てたいとの思いから、わざわざ見学をされるなど、当園への期待の大きさを感じます。

そうした思いにしっかりと応えるために、当園では、保育教諭、保育士、そして職員の募集活動にも力を入れてきました。インクルーシブ保育や医療に強い関心を持つ方、ペガサスの働く職員の健康や、ワークライフバランスへの取り組みに、共感を覚えてくださる方等等。当園での保育事業に、高い意欲を持つ人材が集まっています。

いよいよ始まる私たちの歩み。医療的ケア児も、健常児も、そして、職員も、ともに学び成長し、新しい保育の可能性を拓いていきたいと思えます。

ペガサス健診センターの
ご案内

ペガサス健診センターは、最新鋭の医療機器を使用し、適切な診断を提供しています。
一般健診・企業健診、人間ドックなど、多彩なメニューからお選びいただけます。
お問い合わせ／072-265-6006



ペガサス地域包括ケアセンター

場所：馬場記念病院 総合案内横

時間：平日9時30分～12時まで

健康のことから在宅介護まで。多様なニーズに対応する「なんでも相談」窓口を設置しています。まずはお気軽にご相談ください。【ご相談は無料】

お問い合わせ／TEL:072-265-5558 (担当 伊藤)

「なんでも相談」
窓口ありますペガサスグループ
株式会社ユニコ

取り扱う紙おむつは
150種類以上。
大幅な値下げも
実施中です。



●お問い合わせ
TEL:0120-062-505

私たちと一緒に働きましょう。

随時受付
しています

介護職員募集中! 正職員採用

いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

障がいをお持ちの方、一緒に働きませんか

※障がい者手帳をお持ちの方。正職員への雇用変更もあり
業務は、A)書類の印刷、製本 B)洗濯 C)清掃
D)データ入力 E)資料作成等。

お問い合わせ／馬場記念病院 人事課 TEL:072-265-9089



社会医療法人ペガサス公式 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/s.m.c.pegasus>

ペガサスマンモサوندهー

開催予定

【開催日】(予定)

4/10(日)

5/8(日)

【開催時間】

9時～17時

【お問い合せ】

TEL:072-265-6006
(ペガサス健診センター)PEGASUS
NEWS

ペガサスニュース

発行人/馬場武彦
発行/社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
<http://www.pegasasu.or.jp/>
編集/ペガサス広報委員会
編集協力/HIPコーポレーション
発行/令和4年4月1日

Vol. 101

ペガサスから地域のみなさまへ

医療安全に力を注ぎ、患者さまのより早い社会復帰と、
馬場記念病院の救急医療を支え続けます。

●多種多様な背景を持つ患者さまを支えるために、
多職種チームが地域ともしっかり連携しています。

●ペガサスを通して高齢者医療を見つめる。

私にとってペガサスでの歩みは、1991年に馬場記念病院に、形成外科医として勤務したときから始まります。一旦、他病院に行きましたが、2007年にペガサスリハビリテーション病院に勤務。副院長職を経て、令和4年3月1日より院長に就任しました。

私の医師としてのキャリアでいうと、半分以上の年月をペガサスで重ねています。その間、医療・介護・福祉領域に視野を広げるペガサスを通して、地域に密着した医療機関のあり方を学ぶことができました。特に、当院に勤務してからは、形成外科専門医としてよりも、リハビリテーションを含め、広く高齢者医療全般を見つめ続けてきました。

●多職種が、院内はもちろん、地域とも手を携えて。

当院の患者さまは、馬場記念病院で急性期の治療を終えた方々です。その方々に、病院名が示すように、リハビリテーション医療を軸に、より早い社会復帰を支援する。つまり、急性期の馬場記念病院と、ご自宅や施設との中間的な施設として存在しているのが当院です。

提供すべきリハビリテーションは、抱えている障がいの程度、障がいの質によって、患者さま一人ひとり異なります。また、在宅に戻るとなったときも、ご家族を含めた介護力、経済力など、社会的背景によってゴールが異なります。

そうした多種多様な状況下の患者さまに、それぞれの事情に合わせきめ細かく対応するため、当院には医師、看護師、リハビリスタッフをはじめとした多職種がチームを組み、さらには、ペガサスグループの在宅支援事業所、地域の医療機関、介護・福祉施設とも強く連携しています。

●馬場記念病院の救急医療を支える病院として。

先に、当院は急性期の馬場記念病院と、ご自宅や施設との中間的な施設と述べましたが、単なる馬場記念病院の後方

ペガサスリハビリテーション病院
院長 矢野 基

Profile

1986年に福井大学医学部を卒業、同年に大阪医科大学形成外科教室入局。その後、高知市近森病院、馬場記念病院、松下健康管理センター等の勤務を経て、2007年よりペガサスリハビリテーション病院勤務。2014年9月に副院長就任。2022年3月に院長就任。日本専門医機構形成外科専門医。

病院というわけではありません。馬場記念病院の救急医療を支える病院でもあります。

というのは、例えば、冬になると馬場記念病院では脳神経疾患の救急患者さまがぐっと増えてきます。そうした方々を、馬場記念病院が受け入れ続けるには、病床に余裕がなければなりません。その状況を見つめ、当院も常にベッドコントロールを図り、同院の患者さまを受け入れる。すなわち、馬場記念病院の救急医療が最大限機能するように、いわば調整的な役割を通して、当院も地域の救急医療に貢献していく。

当院のもう一つの役割がここにあると、私は考えています。

●全職種に、今以上の業務改善を求める。

当院の強みを活かし、こうした役割を果たすために、私は、医療安全のさらなる向上を最終目標に、いくつかの取り組みを行いたいと考えています。ひとことで言うと、全職種の業務を効率化、高水準化し、そのぶん、今以上に患者さまへの目線を強めたい。

法的な基準以上の看護スタッフを配置していることを、患者さまへのサービス向上や医療安全につなげるためにも業務効率化の取り組みは大変重要であると考えています。

具体的には全職員のパソコンスキルレベルアップ、無駄を見つけての効率化等など。医師をはじめ、全職種への指導を強めていきたいですね。

「すべては患者さまのために」。全職員とこの思いを共有し、安全で質の高い医療提供に全力を注いでいきます。

地域医療・介護・福祉を支える人材育成レポート

昨日を活かし、明日を見つめる——。
そんな若者が、ペガサスは大好き。
地域を見つめ、ともに未来を
切り拓いていきます。

ペガサスグループでは、若い人材が地域医療・介護・福祉を支える人材になろうと頑張っています。

法人・施設・先輩職員は、全力でそうした職員の育成に努めています。

2021年4月入職の職員による1年間の振り返り



馬場記念病院
研修医 室谷 凌

医師には人間性が何より大切。

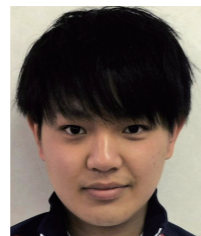
研修医一年目で僕が学んだのは、医師は、進歩する医学知識・技術を持つことはもちろんですが、患者さまやご家族の不安な心に寄り添う人間性が何より大切だということです。先輩医師、多職種の皆さんからそれをしっかり学びました。初期対応を任せられることが増えた今、これからの研修がとても楽しみです。



馬場記念病院外来
看護師 定 遥奈

患者さまを不安にさせない看護を。

初めは、何もできず焦りと不安だけでした。そんなとき先輩看護師に、「病院で一番不安なのは患者さま。あなたが焦ったから余計に患者さまは不安になる。少しでも患者さまを安心させられる看護師をめざして」と、言われて…。この言葉をきっかけに、患者さま、そして看護に、新たな思いで向き合う私になりました。



ペガサスリハビリテーション病院
作業療法士 竹原 捺希

充実した教育体制で不安を払拭。

専門学校最終学年は、コロナ禍のため、臨床実習が限られていました。不安を持って入職しましたが、ペガサスでは、勉強会、症例検討会が頻りに行われるなど、実技面を十分にカバーしてもらえる教育体制が整備され、とても安心しました。いつも身近にいてくれる先輩も、とても頼もしい存在です。



馬場記念病院庶務課
事務職 植田 颯人

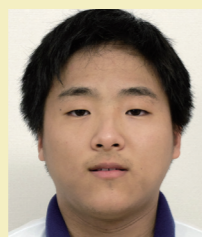
コロナ禍でも楽しく仕事に向き合う。

いくつかの部署を回るジョブローテーションで、事務部のさまざまな仕事を経験し、僕は自分の得意な理数系を活かせる庶務部を選びました。コロナ禍であっても、仕事には楽しく向き合おうという風土があり、先輩たちも、単に甘やかすのではなく、サポートしてくれながら経験してみるという姿勢。充実した毎日ですね。

働きながら 資格取得をめざせます。

資格を取得した職員、資格取得をめざす職員をご紹介します。

ペガサスでは、働きながら専門資格を取ることができます。例えば、介護福祉士は、介護等の実務経験を3年以上経て、実務者研修を受講後、国家試験に挑戦。また、保育士は、児童福祉施設での実務経験2年で、筆記試験・実技試験に合格すれば、保育士の資格を取得。いずれも、ペガサスでは、医療・介護・福祉での実績があるからこそできる、濃密なサポートを行っています。



ペガサス通所リハビリテーションセンター
2018年 介護福祉士資格取得! 高橋 郁也

●周りの支えで働きながら資格取得。

自分が働いている介護の領域で、仕事をしながら資格取得できる介護福祉士に挑戦しました。働きながらですから大変でしたが、部署の統括管理者が開いてくださる勉強会や、先輩からの助言を受けながら、資格を取りました。今は、部署の運営にも携わり、充実した毎日を送っています。



ペガサス第二保育園
保育士資格挑戦中! 近藤 優芽

●意欲ある人材はしっかり支える風土。

元々は医療事務で入職し、人事異動を機に、仕事をしながら保育士の資格取得をめざしています。法人で対策講座を開いてくださったり、現場の先輩や、同じ経験をして保育士になった先輩が助言をくださるなど、意欲ある人材はしっかり支えよう、というのがペガサスの風土。私も、頑張ることができています。

1 社会医療法人ペガサス 健康おおさか推進府民会議総会

健康づくりの取り組みについて、 オンラインにて事例発表。

質の高い医療、介護・福祉を提供するには、まず職員自身が健康でなければならない。こう考えるペガサスでは、職員の健康づくりをめざし、さまざまな取り組みを行っています。

その事例を、令和4年1月19日、大阪府の「令和3年度健康おおさか推進府民会議総会」において、社会医療法人ペガサス理事の田中恭子が、発表させていただきました。

健康おおさか推進府民会議は、市町村、事業者、保健医関係者、医療保険者など、“多様な主体の連携・協働”による健康づくりを推進するのが目的。



今回はペガサスを含め9団体が発表し、その後、同会議実行委員会委員やオンラインで視聴している会員との質疑応答が行われました。

ペガサスへの質問は、職員みんなで参加しようとする仕組みについて。田中からは、スマホやタブレット、バースデカードや院内チラシを活用した、職員広報のあり方や大切さをご説明しました。今回の発表を機に、これからもペガサスでは、職員の「健活」に努力を重ねていきます。 [関連情報はこちら▶](#)



2 社会医療法人ペガサス 大阪府子育てハートフル企業顕彰受賞

ひとり親でも、子育て世代でも、 安心して働ける職場づくりに注力!

大阪府では、ひとり親の雇用、子育てをしやすい職場環境づくりに、積極的に取り組む企業を表彰する「大阪府



子育てハートフル企業顕彰」を実施しています。

この度、令和3年度の受賞企業が決定し、「表彰区分(1)ひとり親の雇用促進等に貢献し、功績が顕著である企業等」において、社会医療法人ペガサスのみ一社が受賞しました。

受賞理由は、院内保育所設置(0歳児から、病児保育あり)、小学生対象の学童保育設置(24時間預かり)・小学校への送迎・学習支援・英会話教室・スポーツ活動などの実施。また、フレキシブル勤務や産育休取得時の復帰前後面談、資格取得費用支援等など。ひとり親でも、子育て世代でも、安心して働くことができる、職場づくりへのペガサスの取り組みが、大きく認められました。

この受賞を励みに、これからも私たちは、さらに働きやすい環境づくりに全力を注いでいきます。 [関連情報はこちら▶](#)



3 社会医療法人ペガサス スポーツエールカンパニー2022認定

スポーツ庁より認定。コロナ禍でも、 スポーツを通して活力ある生活を!

ペガサスでは、クラブ活動、スポーツ教室の実施を、家族も参加できる大運動会や球技大会開催、フィットネスルームの開設など、職員一人ひとりがスポーツを通して、健康促進、いきいきと過ごすなど、活力ある生活を作り出す取り組みを行っています。

こうした活動がもととなり、令和4年1月26日、昨年に引

き続き、スポーツ庁による「Sport in Life プロジェクト」の認定・認証を受けました。

本プロジェクトは、働き盛り世代のスポーツ実施を促進し、スポーツへの社会的機運の醸成が目的です。対象は、従業員のスポーツ活動の支援や、促進に向けた取り組みを行う自治体や団体、企業。今回は全国でペガサスを含む685社が認定されました。



[関連情報はこちら▶](#)

